

岡山市埋蔵文化財発掘調査速報展2016

と き 平成28年11月2日(水)・4日(金)
ところ 岡山市役所 1F 市民ホール

津島江道(岡北中)遺跡 岡山市北区津島東

岡山市立岡北中学校は、現在のJR岡山駅から北東方向に約2.5kmの位置にあり、津島江道遺跡の範囲内に立地します。津島江道(岡北中)遺跡は、過去に発掘調査が実施され、縄文時代から中世までの時期の遺構や遺物が確認されました。特に、縄文時代晩期まで遡る可能性が考えられている水田遺構や、古代の官衙に関連するような建物群が検出されるなど、注目すべき点が多い遺跡です。

今回は縄文時代から古代にかけての遺構を調査しました。縄文時代の遺構は明確でなく、土器片や石器が出土しています。弥生時代は後期に入ると用水路としての溝が掘られ、多数の土器をともなっています。古墳時代は、竪穴住居が検出されていますが、調査区内で鉄滓が出土するなど、集落内の手工業生産を想像させる遺物がみられます。

こうした状況が大きく変化するのは、古墳時代の終わりから奈良時代にかけての時期です。集落を構成する竪穴住居が掘立柱建物をメインとするものへとかわり、居住用の建物と倉とがセットとなる景観が復元され、一部に官衙的な様相がみられるようになります。

造山第2古墳 岡山市北区新庄下

造山古墳に近接する、造山第2古墳周辺の発掘調査を行いました。古墳を回る周溝や埴輪列の有無を確認し、古墳の範囲を調べることが主な目的です。第2古墳は、現地表の観察では1辺20m程の四角い古墳(方墳)とみられます。平成9～10年に、周辺の遊歩道整備に伴って発掘調査が行われ、葺石を伴う周溝と埴輪列が一部確認されています。5世紀中頃の築造と考えられます。

調査の結果、第2古墳の北東側や北側においても周溝が確認できました。周溝は、地山を掘り下げ、その斜面に石を葺いています。周溝は、現状で深さが約1.5m、幅が東側の底で1.5m、北側の底で3mと、場所によって規模が異なるようです。

今回の調査によって、第2古墳の形が方墳である可能性が高まり、古墳の周囲が現在よりも5m程(1辺が約10m)大きくなることがわかりました。今後さらに調査を進めることができれば、第2古墳の正確な規模や形態を知ることができるでしょう。

岡山城跡本丸下の段 岡山市北区丸の内

史跡岡山城跡保存整備事業として、今回の調査は内堀内石垣のうち修覆櫓から油櫓、隅櫓へと続く地点にT1～T4、内下馬門に隣接する太鼓櫓から修覆櫓の間でT5、旗櫓に隣接する地点にT6の各調査区を設け石垣の確認を行ったほか、鉄門(くろがねもん)石垣の解体修理に伴い立会調査を行いました。

その結果、T1からT5では高さ2.5mから3mほどの石垣が良好な状態で残されていることが確認されたほか、石垣上面では土堀の基礎も見つかりました。また、T6では旗櫓に隣接する石垣を確認することができました。

鉄門調査区では石垣解体中に栗石に埋められた石垣が見つかりました。この石垣は慶長5年(1600)から7年(1602)の小早川秀秋が城主だった時期のものとみられ、池田期の鉄門と同じ場所に門が築かれていたことが確認されました。遺物は各調査区とも瓦や陶磁器類が出土しましたが、T1では大量の瓦で石垣が埋められており、その中から魃(しゃちほこ)の破片が出土しました。

勘定口5号墳 岡山市東区瀬戸町塩納

岡山市東区瀬戸町塩納周辺では美作岡山道路建設に伴う発掘調査が2010～2012年度にかけて行われています。その後、道路建設に伴う山林の伐開によって、あらたに勘定口2号窯・勘定口4号墳が発見されています。勘定口5号墳も美作岡山道路建設による山林の伐開によって2016年2月に確認された古墳です。

発見当初、天井石は奥壁に架かる一石のみ残され、西側の側壁もその多くがすでに失われていました。墳丘もほとんど残存しておらず、周溝は確認できませんでした。石室は両袖式で、規模は奥壁の幅は底付近で0.9m、奥壁の高さ1.3m、残存部の全長2.7mとなります。

遺物は、ほとんどみられず、わずかに古代の土師器の杯が1点、中世の土師器碗が1点出土しているのみです。石室の形態および出土遺物から見て、7世紀前半の築造と推測されます。

金蔵山古墳 岡山市中区沢田・円山

金蔵山古墳は操山丘陵のほぼ中央、標高100mほどの山頂に位置する前方後円墳です。墳長約165mとされ、造山古墳以前では中四国九州で最大規模を誇ります。平成23年度から史跡指定を目指し測量調査、範囲確認調査を実施しています。

西側造り出し上面の調査では小円礫を一面に敷き詰めており、形象埴輪群は設置していない状況がわかりました。トレンチ南端付近は柵形埴輪が並べられていたようで、形象埴輪が配置される一昨年度調査部分を区画していたもののようです。トレンチ北側では一昨年度検出した埴輪列から続く円筒埴輪列を検出しました。

造り出しの角部分の調査では、後円部側の埴端、前方部側の埴端をそれぞれ検出し、この部分で埴端に段差を形成していることがわかりました。

今回の調査で西側造り出しの状況がかなり判明しました。西側造り出しは後円部に直接接続しています。上面は円筒埴輪列で囲まれていると予想され、南寄りには柵形埴輪でかこみ、家形埴輪、円形埴輪を配置する埴輪区画があります。埴輪の区画以外には小円礫が敷き詰められているようです。周辺からは蓋形、短甲形、盾形、家形などの形象埴輪が出土しており、南側以外にも埴輪の区画が存在した可能性もあります。

礫を敷かず形象埴輪群を配置する区画、小円礫を敷き詰める部分と、造り出し上面が明確に区分されていた可能性が高く、造り出し上の祭祀や造り出しの起源、性格を考えるうえで重要な成果といえます。

もっと知りたい!という方は・・・

”埋蔵文化財発掘調査報告会” には是非お越し下さい。速報展で展示した遺跡・遺物のことを発掘調査の担当者が詳しく説明します

●と き 11月5日(土) 13:30～ ●ところ 岡山市埋蔵文化財センター (岡山市中区網浜834-1) Tel (086) 270-5066 *11月4日(金)までに左記に要予約のこと

また、岡山市シティミュージアム(岡山市北区駅元町)にて、2017/2/18(土)～4/9(日)まで、出土遺物を展示します。(入館料が¥300かかります)

